

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 9 月 14 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 8名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	10名	

※事業所記入

事業所番号	3891300133
事業所名 (ユニット名)	認知症対応型生活介護事業所くりのみ土居 Gユニット
記入者(管理者) 氏名	泰山 永宜
自己評価作成日	令和 2年 8月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>一、その日その時を穏やかに普通に楽しく生活できる。</p> <p>一、必要な時にその方にあったサポートができるケアを目指す。</p> <p>一、地域での生活が送れるように地域との交流を図る。</p> <p>「グループホームの基本理念」和顔愛語・・・和やかな笑顔と思いやりのある言葉で、居心地の良い暮らしを提供する</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>①家族がいつでも施設に来やすい環境作りや、声かけを行う。→面会や家族さんとの連絡時にいつでも来ていただける様に声掛けを行ったが、施設に来られる頻度が増えた様子は見られなかった。</p> <p>②家族や、地域の方、地域包括支援センターの方に運営推進会議へ参加して頂き、客観的な意見を頂き反映する。→家族の方の参加はなし。地域の方や、市役所の方に参加して頂き、客観的な意見交換が行えた。</p> <p>③夕食後の準備の手伝いを入居者さんに手伝って頂く。→現在は昼食作りを時々行い、入居者さんも手伝いが出来る方には手伝って頂いている。</p> <p>④入居者さんの入浴時間を個別に調整する。→現在、入浴時間にこだわりのある入居者さんがおられず、以前と変わりなく入浴されている。</p> <p>⑤運営推進会議や自治会等に、地域住民と災害時への取り組みについて話し合いを行い、一緒に訓練を行う。→現在、実際に災害時の訓練に地域住民も参加して頂いている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は、地域密着型介護老人福祉施設と短期入所生活介護事業所、通所介護事業所が併設された複合施設の2階にある。事業所周辺には田んぼがあり、のどかな雰囲気である。母体法人は整形外科で、同一敷地内にはリハビリ施設があり、希望する利用者は足を運び、状態に適合したりリハビリ訓練を行い、職員は生活機能の維持・改善に努めている。また、職員には転倒予防指導士の育成を行い、法人・事業所として利用者の転倒予防にも力を入れている。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしており、職員や利用者と一緒に事業所の理念である「和顔愛語～和やかな笑顔と思いやりのある言葉で、居心地のよい暮らしの場を提供する」ことを目指して、日々努力している。</p>
--	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居者一人ひとりの思いに答えられるように、日常生活の中での会話を大切に、環境整備等を行っている。	◎	/	◎	入居時に、職員は利用者の思いや暮らし方の希望、意向を聞き取り、基本情報シートに記録している。また、日々の会話の中から得た意向等は、年1回のシート更新時に追記している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	入居者さん目線、把握出来ないことも、家族さんに確認したり、本人さんの今までの生活歴等から判断するようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族さんとは面会やカンファレンスを通して、本人さんの情報や考え方を理解し、話しを行っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	アセスメントをカンファレンスでスタッフに共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	出来るだけ、本人の思いを大切に、本人さんの思いが分からない時は、色々な事を試して、再度本人さんに確認するようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族や本人に興味や生活歴を確認し、出来るだけ、生活の中に反映できるように支援しているが、共同生活の中で思い通りに出来ないこともある。	/	/	○	職員は利用者や家族から、生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過などを聞き取るほか、入居前に担当していた介護支援専門員から情報収集している。また、入院してした利用者には、病院等からのサマリーも入手し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	状態の変化時には、スタッフ間で話し合い、申し送り共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の生活支援の中で、声かけの仕方や、対応の仕方により入居者さんの不安にならないように申し送りや、カンファレンスで話し合いを行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	カンファレンスを定期的に行い、入居者さんの身体的、精神的等のアセスメントを行う様にしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入居者さんに合わせた生活を出来るだけ心がけているが、生活のリズムを作る事も大切にしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンスにてやミーティングでスタッフ間で入居者さんについて検討している。	/	/	◎	利用者ごとの担当職員が把握した情報を基にして、月1回カンファレンスを行い、「利用者がどのようにしたいのか」を、利用者の視点に立って職員間で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	個別支援として、その人の生活環境に出来るだけ、合わせられるように検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	毎月、モニタリングを行い、課題を発見出来るようしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	居室内等には家にあった物や、写真等を飾って頂き、その人が以前生活の延長になれるように介護計画を作成している。	/	/	/	職員は利用者や家族から、入居前から利用者が好きだったことや自宅での習慣などの情報を得ている。利用者がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方などを職員は利用者や家族と話し合い、それぞれの意見を反映して介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	家族、スタッフ、本人と話しあい、その都度意見を反映するように連携を取っている。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方が入居者に居られないが、軽度、重度に関わらず、その人らしい生活が送れる様に支援を目指している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方の協力体制はないが、家族さんには出来るだけ、病院受診をして頂いたり、外出、外泊支援にて関わりを持って頂くようにしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランをまとめたファイルを用意し、いつでも閲覧出来るようにしている。	/	/	◎	事業所では介護計画を1冊のファイルにまとめ、常に利用者へのサービス提供の内容を把握・理解し、職員間で共有できるようにしている。「介護計画に沿ってケアが実践できたか、その結果どうだったか」を職員は居宅介護経過に記録して職員間で確認を行いながら、日々の支援につなげている。利用者一人ひとりの暮らしの様子や支援した内容、職員の気づき、工夫など、職員は個別に居宅介護経過に記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングやカンファレンスで個別のケアについて状況の確認を行っている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	カルテにて、入居者さんの変化についてや、一日の生活の様子を記事にてし個別に記録し、経過記録として、一月毎にまとめている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	入居者さんの思いにて、スタッフ間で話し合い、環境整備を行い、申し送りしているが、個別には行っていない。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	変化のない方は6ヶ月に一回見直しを行い、変化のある方は、期間を短くしたり、変化時に見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。新たな要望や状態の変化がない場合にも、職員は月1回利用者一人ひとりの現状を確認している。利用者の心身の状態や暮らしの状態に変化が生じた場合には、職員は利用者や家族と随時話し合い、その都度新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月、個別に全員の評価を行うようにしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	生活の変化や身体に大きな変化がみられた時は、その都度再アセスメントを行い、計画内容を変更している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月一回はミーティングを行い、入居者さんについて話し合いを行い、緊急時は日程の調節を行って話し合いをしている。	/	/	◎	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、月1回ミーティングを実施している。緊急案件がある場合には、その都度その場にいる出勤職員で話し合いをしている。参加できなかった職員にはミーティング議事録を確認してもらい、サインしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	普段から、気づきや考え方について意見交換し、スタッフ全員に意見を聞くようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	出来るだけスタッフが参加できるように開催している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	ミーティング議事録を作成し、確認をしたらサインをするようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	朝の申し送りや、申し送りノート、ミーティング議事録にて共有している。	/	/	◎	申し送り時に職員に伝達するほか、申し送りノートやミーティング議事録などを職員に確認してもらい、確認のサインをして情報共有をしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝えるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートや議事録に情報をまとめ、目を通してサインをして頂いている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	その日したいことを把握するようにしているが、業務の中でおろそかになっていることも多い。	/	/	/	日頃から職員は利用者へ選択肢を提示し、衣服を選んだり、リハビリや入浴の希望など決めてもらったりするなど、利用者が自己決定できるようにしている。利用者の好きな室内ゴルフや歌を歌うレクリエーションを行うなど、職員は利用者の生き生きとした言動や表情を引き出している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	出来るだけ、スタッフが決めるのではなく、入居者さんに決めて頂くようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	スタッフ本位ではなく、入居者さん本位になるように、まず、入居者さんに声かけすることを心がけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	食時の時間や、リハビリの時間がある程度固定されており、出来ていない部分もある。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	レクリエーションにて、季節のお話や歌や軽作業、体操を定期的に行っている。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難な方はジェスチャーや表情等で反応を確認して、声かけや対応の仕方を工夫している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	人権やプライバシーに関する勉強会への参加を行っており、参加者はレポートにて理解度を高めている。	/	◎	○	年1回、人権や利用者のプライバシー等の勉強会を実施し、参加した職員はレポートを作成している。日々、職員は利用者に対して、命令口調にならないように注意して声かけをしている。利用者の落ち着いた動作に気づき、職員はさりげなくトイレ誘導することもあるが、周りに聞こえるように「トイレに行きましょう。」と声かけをしよう職員もいる。管理者は、こうした職員の声かけや対応が見られた場合には職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。職員は居室を利用者専用の場所、プライバシーのある場所であることを理解しているが、歩行者を使用している利用者の介助の際に、ドアを開けている時間が長くなることもあるため、職員一人ひとりが利用者のプライバシーを常に認識し、利用者へ配慮した支援できることを望みたい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	介護の声かけに対して「トイレへ行きましょう」と言ってしまうたり、配慮が欠ける声かけが見られる事があるので注意している。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	同姓介助は行っていないが、排泄時、入浴時にはプライバシーに配慮して介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室のドアが開きっぱなしになっていることが時々あり、注意する。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	勉強会を行い、プライバシー保護や個人情報漏洩についての理解を深めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者へ助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	料理や昔の話をして頂き、スタッフも勉強させて頂いている。	/	/	/	職員は利用者同士の関係を把握しており、相性の良くない利用者同士の食事の座席を変更する対応している。また、エレベーターと一緒に乗らないように配慮するなど、トラブルになりそうな場合には、職員が利用者間を仲介することもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者さん同士が仲良くでき、支え合えるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	入居者さんの食時の席や、一緒に行動するメンバーに配慮し、出来るだけトラブルにならないように、何かあれば直ぐにスタッフが介入するようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブル時にはスタッフが介入し、今後、同じ事が起こらないように検討し対策している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	家族や近隣の方にお話を聞いて、できるだけ把握出来るように努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	時々、入居者さんの地元ドライブに行ったりして昔を思い出してもらっている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人や友人等に会いに行かれる事はほとんどないが、知人や友人が来られることはある。(現在はコロナウイルスにて面会制限あり。)				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来られた際は、居室やラウンジ、ソファ等でお茶を提供しゆっくりと過ごして頂いている。(現在はコロナウイルスにて面会制限あり。)				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	近くにあるリハビリ道場の活用や、買い物に出かけたり、散歩も行っている。しかし、入居者さんの希望にそっては出かけていない部分もある。(現在はコロナウイルスにて買い物等は制限している。)	○	×	△	日頃から、職員は利用者と一緒に買い物や散歩に出かけている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、利用者は買い物などの外出はできていない。複合施設の同敷地内にあるリハビリ施設に、月・水・金曜の週3回希望する利用者は出かけ、気分転換を図っている。車いすの利用者にも、戸外に出て気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。管理者は、コロナ禍の終息後には買い物や散歩を再開することを考えている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方とは、懇問にて交流を持っているが、外出支援は進められていない。現在、懇問もコロナウイルスで制限している。)				
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の方は現在いないが、みなさん、その日の体調や状態に応じて対応を行える様に努めている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人や家族さんの希望で、外泊や外出支援も行っているが、地域の人々の協力体制はない。(現在はコロナウイルスにて外泊、外出支援も制限している。)				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	勉強会で認知症の行動・心理症状について理解し、入居者さんの不安解消に努めている。				更衣や入浴、食事などの時には、利用者のできることは時間が掛かっても、職員は手や口を極力出さず、見守りながら支援できるよう取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廃用性症候群やフレイル、サルコペニアについて理解し、ADLが低下しないように、体操をしたり、生活のなかで機能の維持が行える様に支援している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	入居者さんの出来る事、出来ないことについて、スタッフで共有し、今まで出来ていたことが出来なくならないように支援している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	日常生活の中で、役割をもってもらう事により、生きがいのある生活が送れる様に昔の趣味や生活歴を把握している。				野菜の下ごしらえや台拭き、掃除など、職員は利用者の役割や出番づくりに取り組んでいる。訪問調査日には、利用者が進んで、ごぼうのさがきをしている様子を見ることができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	その人のレベルに合わせて、楽しみをもち出来る事を役割として行っていただいている。	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域と関わり持てる様に模索しているが、現在は関わりが持ていない状況である。				

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	衣類を自分で選んでもらったり、昔から着ている馴染みの服で過ごしていただいている。				食事の際に、利用者の意思を尊重し、エプロンを使用しないで食べた後、職員は汚れをさりげなくカバーしている。重度な状態の利用者にも、好みの衣服を家族に持ってきてもらい、着替えをしている。訪問調査の月から訪問理美容の利用を再開し、好みの髪型にしてもらう予定にしており、利用者は楽しみにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	衣類、持ちものは、以前から入居者さんが使用しているものを持って来て頂き、髪型も、行きつけの美容院を利用されたりしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	入居者さんの視点で、身だしなみを整えるように支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節により服装も変え、その季節にあった外出や年間のイベントを行っている。(現在コロナウイルスにて一部制限している。)				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	毎朝の整容や、食後の口腔ケア時に、身だしなみを整えている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望がある方は行きつけの理容・美容店を利用されている。(現在はコロナウイルスの為制限している)				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	以前の好みや、こだわりを考慮し、家族さんに衣類等持って来て頂いている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	勉強会や食時のマニュアルにて理解している。				職員は利用者の好みや苦手なもの、アレルギーの有無などを聞き取り、法人の栄養士が旬の食材を取り入れながら、バランスの取れた献立を作成している。基本的に複合施設の厨房で調理し、事業所内で職員が盛り付けをしている。事業所内で調理する場合には、利用者と一緒に買い物に出かけていたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、買い物には行っていない。野菜の下ごしらえや下膳など、利用者の状態に合わせて、できることを手伝っている。茶碗や皿などは事業所で用意した同じ物を使用し、湯呑みや箸は使い慣れたものを持ってきてもらっている。基本的には、職員は利用者と一緒に食事を見守りながらしている。重度な状態の利用者にも手書きのメニューを見てもらい、調理の音や匂いを感じながら食事を待つような雰囲気づくりができています。また、法人内には給食委員会が設置しており、献立や調理方法、食事形態などについて職員間で話し合い、栄養士に伝えている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物や献立づくり、食材選び、調理の手伝いを行ってもらっているが、頻度は多くない。(現在はコロナウイルスで買い物も制限している。)			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	買い物、調理も時々行っているが、頻度は多くない。(現在はコロナウイルスで制限している。)				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	スタッフと栄養士で好きな物、嫌いな物を共有し、食事の提供を行っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	△	献立は栄養士さんが作成している。時々、昼食作りにて入居者さんにも献立づくりに協力して頂いている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	食時は入居者さんに合わせた形態で作って頂いているが、器はみなさん同じものを利用しており、工夫が出来ていない。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗や湯飲み、箸等は家で使用していた物や、入居者さんが使用しやすい物を持って来て頂き使用している。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	スタッフも検食を行う為、入居者さんと一緒に食事を摂り、サポートしている。				
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わかるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理は行っていないが、献立を読んだり、その料理の由来を話したりしている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養バランスやカロリーは栄養士が行い、食事は個別記録表に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事が少ない方には、お菓子等の間食を提供したり、水分が少ない方は、水分補給の回数を増やしたり、アクエリアス等の吸収率の高い飲み物を提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立のバランスは栄養士が行っているが、昼食作りを行う時は栄養士と話し合い、バランスを考えて提供している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器類は厨房にて殺菌、消毒を行っていただき、食材も管理して頂いている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会や口腔ケアのマニュアルにて理解している。				月1回、歯科衛生士の訪問があり、利用者一人ひとりの口腔中の健康状態を把握してもらっている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防により歯科衛生士の訪問は中止しているため、毎食後に利用者が口腔ケアを行った際には、職員が口腔内の健康状態を確認している。口腔内の異常が見られた場合には、歯科医に往診をしてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	定期的に歯科衛生士に口腔状態を見て頂き、申し送りを行っている。(現在コロナウイルスで制限している)			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	一ヶ月に1回衛生指導、二、三ヶ月に一回歯科医の往診があり、衛生指導して頂いている。(現在コロナウイルスで制限している。)				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯の手入れも歯科衛生士の指導のもと行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後の歯みがきチェックを行い、義歯洗浄剤も定期的に使用し、歯ブラシ等の手入れも週に一回行っている。また、口腔内に異常があれば、協力歯科医院に連絡して見て頂いている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	本人の訴えや異常があれば受診を行ったり、訪問診療にてすぐに見て頂いている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	勉強会や排泄のマニュアルにて理解している。				職員は、利用者がトイレで排泄できることを基本として支援している。、月1回のカンファレンスで、その時の利用者の状態に合った排泄支援ができるよう、職員間で話し合っている。入院中におむつを使用していた利用者が、退院後には状態を確認しながら、リハビリパンツに戻せるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	看護師が配置されており、便秘についても指導している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を個別に作成し、入居者さんにも確認をとり把握行えている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	カンファレンス等で排泄についても話し合いを行い、その都度検討している。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	看護師が配置されており、看護師と医療連携病院との連携にて対応している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	食前や食後等に定期的に排泄の声かけを行い、落ち着きの無くなった入居者さんはトイレへ誘導して対応している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	カンファレンスやミーティング等で話し合いを行い、家族さんや入居者さんにも理解をして頂いてから支援するようにしている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	入居者さんに合わせた下着やおむつを家族さんに依頼し使用している。不具合がある場合は本人さんとお話して変更している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	定期的な運動や水分を多く摂取して頂く等している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	入浴は週に三回入っていただき、曜日もしっかり決まっている。入居者さん一人ひとりに合わせて温度を変えたり、入浴の長さも調節しているが、みなさんから入りたい時間の希望がない事もあり、入浴する時間帯は決まっている。	◎		○	事業所では週3回利用者は入浴することができ、職員は入浴時間の希望を確認している。入浴に気の乗らない利用者もおり、職員が声かけても無理な場合には、時間帯や入浴日を変更しながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴には、好みの自身のシャンプーを使用している利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	一人ひとりの入居者さんの状態や体調に合わせて、入浴を行い、湯温を調節したり、気分転換が行える様に努めている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	スタッフは出来ない事を介助することを心がけ、更衣や、自分で洗える場所は自力にて行ってもらっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴拒否時はバイタルを測ったり、また、気分により入りたくない方も居られるため、配慮して午後に入る様に声掛けしたり、次の日に入るように声掛けを行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には必ずバイタルを確認するよにして、前日に転倒や体調不良時も、体調に合わせて入浴を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間の状態チェックを作り、大体の睡眠時間が把握出来るようになっている。	/	/	/	現在、入居前から睡眠導入剤を内服している利用者が3名いるが、入居後に、日中の活動を増やすなど、夜間の行動に落ち着きが見られ、内服を中止できた利用者もいる。職員は医師と相談しながら、利用者が安眠できるよう総合的な支援を行っている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜眠られない方には、日中の活動量増やしたり、離床時が増える様な声かけを行い、不安の解消を図り、出来るだけ生活リズムが保てるように努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	睡眠導入剤を使用している方は数名で、出来るかぎり活動量等を増やし睡眠がとれるように支援している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	入居者さんの体調に合わせて、臥床の声かけを行ったり、食後にはベッドにて休む時間を設けている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望される方には電話や手紙をして頂いているが、電話をすることで電話に執着することもあり、内容を確認し、スタッフが家族さんに電話することも多い。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙が書けない方には内容を確認して、スタッフ書いたり、電話もスタッフが内容を確認して、家族への電話を行う事が多い。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	電話への配慮は、認知症の方が一人で電話することは難しく、スタッフもついている必要がある為、本当に必要な時のみ電話をかけて頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	現在、何度も返信する手紙のやりとりは行っておらず、家族さんと面会出来ない時等に手紙を利用して工夫している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人さんが電話をかけることも、家族さんは快く了承しているが、家族さんからは電話ではなく、面会に来られることが多い。(現在はコロナウイルスの為、面会も制限されている。)	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金の管理が行える入居者さんにはお金を所持して頂き、管理が行えない方や家族が近くに住んでおらず、お金が必要な時にすぐに持って来られない方は施設にて管理している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	お金を持たれている方はその都度買い物をされ、持たれてない方は、その都度家族さんにお金を依頼し、買い物に出かけた際は、好きなお菓子を買われたりしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	入居者さんが安心して買い物出来るように支援は行っているが、日頃から買い物先の理解の協力への働きかけは行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金の管理が行える入居者さんにはお金を所持して頂き、管理が行えない方や家族が近くに住んでおらず、お金が必要な時にすぐに持って来られない方は施設にて管理している。家族さんにも説明し、理解して頂いている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金を使用する際は、本人の確認や家族に電話等で確認し、必ず領収書にて家族さんに説明をさせて頂いている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	家族さんには入所時や、面会時等にお金の管理については説明させて頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	家族さんには、定期的にサービスの内容や支援方法の説明を行い、家族さんの意見も取り入れながらサービス利用に努めている。	◎	◎	以前からのかかりつけ医の受診には家族に同行をお願いしているが、都合の悪い場合や緊急性のある場合には、職員が同行するなど柔軟に対応している。	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>(3)生活環境づくり</b>										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	来て頂ける方に不快感を与えないように、整理、整頓に努めている。	◎	○	◎	複合施設と共有の事業所の玄関は広く、出入りがしやすい。整理整頓された空間には花の鉢や観葉植物が置かれ、心地よさを感じることができた。事業所の入口には手洗い場が設置され、衛生面にも配慮されている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	家庭的な雰囲気を大切に、季節に合わせて物品や装飾を変えて季節感も出るようにしている。	◎	○	◎	事業所内には量が敷き詰められ、家庭的な温かみを感じることができた。廊下の壁には季節に応じた紙で作った花の飾りが飾られ、リビングからベランダに干している洗濯物などを見ることができる。また、事業所内には不快な音や光、臭いはなく、掃除が行き届いている。廊下のつきあたりに、メダカの水槽や観葉植物が置かれ、見晴らしの良いくつろげる空間となっている。また、あちらこちらにソファが置かれ、利用者は好きな場所でくつろぐ姿が見られた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の換気や、施設内の消毒に努め、汚物置きも匂いが出ないように汚物は新聞紙で丸めて入れるようにしている。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節に合わせて、壁画や装飾品を変更し、花を飾ったり、四季が感じられるように努めている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う方は食時の席を近くしたり、イベントで外出するときも出来るだけ一緒になる様に心がけている。また、ラウンジもあり、独りになれる場所も確保している。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレは各居室にあり。浴室も共用空間から直接見えなくなっている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	備え付けの家具もあるが、使い慣れた物等も持って来て頂き、本人さんが居心地の良い生活が送れるように家族さんにも説明している。	◎		◎	各居室はトイレや洗面所、クローゼット、たんす、エアコン、テレビ、ベッド、冷蔵庫などが備え付けられている。居室には家族の写真などを持ち込み、職員と配置を考えながら居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	全居室個室になっており、バリアフリーで、トイレ内には手すりもついており、出来るだけ自立して生活できるような設計になっている。				◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	家族の方の話しを伺いながら、職員間で話し合い、対応するようにしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	季節に合った展示物や、日常生活に必要な、家と変わらないものがあり、雑誌や季節によって花を生けたりしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	スタッフは日々の勉強会で、鍵をかけないようにすることの大切さを理解している。	◎	◎	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関には鍵をかけていない。ユニットの入口には日中は鍵をかけていないが、防犯のため20時から翌朝7時まで施錠している。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族さんにも基本的に鍵の使用はしないことをしっかりと説明して理解して頂いている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	基本的に、リビングから玄関が近く、スタッフも必ず見守りにリビングに一人は居る状態を作り、玄関に行かれる方には声かけ等行い対応している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	毎月行うミーティングでは各入居者一人ひとりの事について話し合いを行い、入居者さんの状態も常にカルテで観覧出来るようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日中の状態をカルテ記入するようしており、変化があればカルテに記入し、申し送りにて全員が周知出来るようにしている。バイタルも毎朝測定するようになっている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護師が勤務しており、なにかあれば看護師に報告し、また、協力医院に報告すれば医師が対応してくれるようになっている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居者さんの中には協力医院以外にもかかりつけの医療機関を持たれており、定期的を受診を行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人さんと家族さんの希望を一番に、協力医院と連携しながら対応を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院は、可能な限り家族さんにも対応して頂き、情報の伝達や共有のあり方等について話し合いを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時は入院された医療機関と連携を図り、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院関係者とは入院時、退院時に情報の共有に努め、早期に退院出来るように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力医院の医師は月に2回往診に出来るようになっており、入居者さんやスタッフとも関係作りがおこなえている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職の配置があり、情報や気づきについてなにかあれば報告し相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医院。看護士とも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎朝、バイタル測定を行っており、変化があれば看護士に報告し相談している。また、体調の変化が見られた際も、すぐにバイタル測定し、報告するように対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	常時薬剤情報を見れるようにカルテに入れている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬についてもマニュアルを作成しており、スタッフが医師の指示通り対応出来るようになっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の小さな変化に気を配り、服用を行っている薬の確認や、主治医への報告・相談を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	家族、医師、看護職等と情報提供し、服薬の支援を行っている。				

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態の変化が生じた際は、再アセスメントを行い、必要に応じて医師や家族さんと話し合い、意向を確認しながら対応している。	/	/	/	入居時に「看取りに関する指針」を基にして、職員は利用者や家族に説明を行い、意向の確認をしている。その後は毎年意向を確認し、情報を更新している。状態が悪化した場合には、医師を含めて家族や職員などと具体的に話し合い、方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	主治医や協力医療機関等へ相談し、情報を共有している。その都度必要な処置等の検討を行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	重度化・終末期についてスタッフの思いを把握出来るように声かけを行い、必要に応じてミーティング等で話し合いを行う様になっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居される際に、本人さんや家族さんにはっきり事業所のできること、できないことについて説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族や、かかりつけ医とはしっかり「報告、連絡、相談」に努めており、チームとして連携を図っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族さんの思いを傾聴し、理解するように努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	マニュアルや勉強会を通して学んでいる。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	現場にマニュアルを設置しており、発生時には速やかに対応出来るように努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	医療機関との連携や行政のホームページを確認し、地域の感染状況に応じ感染委員会を開催し対策している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染症流行期には、換気、マスクの着用、手洗い、手指消毒、手すりの消毒等に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	スタッフ、入居者さんの手洗いや消毒、来訪者の方にもマスクの着用を促し、接触時には消毒もして頂いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族さんが面会時にはスタッフも声かけを行うようにし、コミュニケーションを図っている。(現在はコロナウィルスの為面会制限している。)	/	/	/	昨年実施した複合施設の納涼祭や敬老会の行事案内を家族に送付し、2~3人の参加があった。今年は新型コロナウイルス感染症予防のため、行事は開催できていないが、コロナ禍の終息後には再開予定である。月3~4回家族の来訪があり、職員は家族に声をかけ、利用者の暮らしや日常の様子などを伝え、気がかりなことなどの相談にも応じている。現在は面会制限中で、家族は直接利用者の様子を見ることできないため、毎月日常の様子が分かる写真を送付するほか、年2回広報誌「さといも便り」を送付している。事業所の運営上の事柄や出来事については運営推進会議で報告しているが、家族の参加がないため、今後は家族全員に会議録を送付し、理解や協力を得られることを期待したい。また、家族同士の悩みごとなどにも応じられるよう、家族会の実施を検討することを望みたい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	入居者さんと居室でお話されたり、お茶を提供して、ゆっくりと過ごしていただける様に声かけをしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	家族さんには納涼祭や敬老会に参加していただける様に声掛けを行っている。(今年はコロナウィルスでイベントへの家族さんの参加は行ってない。)	◎	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	定期的に入居者さんの写真等のお便りを送付するようにしている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	日頃から家族さんとはコミュニケーションを図れるように努め、近況報告を行いながら話しをしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	入居者さんの状態等は変化が見られた時や、カンファレンス時に家族さんに報告し、出来るだけ本人さんの尊厳が守れるような支援を目指している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	事業所の事柄等に変更があった場合は、家族さんに説明し協力が得られるように努めている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	納涼祭や敬老会で家族さんとの交流が図れるようしているが、頻度は多くない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	入所時に起こりうるリスクについて説明し、理解された上で、抑圧感のない生活が行えるようにスタッフ間でも話し合いを行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	◎	家族さんが意見や希望を伝えられるように、普段からコミュニケーションを図り、また、意見箱を設置し、気軽に意見が伝えられるようにしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入所前の契約時に説明し、同意して頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	入所前の契約時に説明し、同意して頂いている。退居先については家族さんやケアマネと相談し対応している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入所前の契約時に内訳を説明し、変更があるときは、その都度説明するように努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	事業所開設時には、地域住民や自治会などに説明し、理解、協力頂いている。	/	◎	/	昨年の複合施設の納涼祭には地域住民に声かけ、約150人参加があった。事業所には地域のフラダンスや舞踊などの慰問があり、交流している。敷地内にあるフラダンスなどの練習できる場を開放しており、日頃から法人・事業所として地域住民に対して関係を深められるよう働きかけをしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域のイベントへの参加や、地域の保育園や、小学校と交流を行ったり、納涼祭等で、地域住民にも参加を促している。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域の人達への呼びかけが不十分などがあり、増えていない。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の方も参加をして頂いている納涼祭や、入居者さんの近くの友人が遊びに来てくれている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	隣近所の方は散歩されていたり、畑で仕事をされており、挨拶をしたりしているが、日常的なお付き合いではない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	近隣の保育園や小学校から慰問に来られたり、定期的なふれあい相談員さんがみなさんとお話に来てくれる。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	家族の方の協力も得ながら、敬老会への参加を行っている。また、馴染みの美容院へも行ったしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	自治会の方等に運営推進会議へ参加頂き、理解を広げる働きかけもしている。近隣の理髪店に散髪に来て頂いたり、歯科医の協力や、消防にも定期的に来て頂き関係を深めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	入居者さんや、地域の方の参加はあるが、家族さんの参加は行っていない。	/	△	△	運営推進会議には、利用者や市担当者、地区社協、民生委員、自治会、公民館長など、多くの関係者が参加して開催している。会議には職員が家族の参加を呼びかけているが、参加するまでには至っていない。会議では、利用者の様子やサービス提供の実際、評価への取組み状況などを報告している。また、会議の参加者から福祉祭りへの出店の希望の意見が出され、利用者と職員が一緒に作った苜玉の販売をした報告もしている。今後、家族が参加しやすいように楽しみとなるような行事や避難訓練などと一緒に会議を開催するなど工夫を望みたい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取組み状況等)について報告している。	◎	事業所で行っている事について、できるだけ詳しく報告出来るように努めている。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	地域の方や、市役所の方等にいろいろな意見や地域の情報を頂き、日々の取組みに活かしている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	会議の最後に都合に良い日程の調節を行っている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	会議開催には、議事録を作成し高齢介護課に提出している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム内のみなさんが見える位置に提示し、いつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	ホーム内に提示し、誰もが見えるようにしている。	△	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修案内等を配付・周知している。また、各職員の職種や力量に合わせた声かけをしている。				法人・事業所として、職員の働きやすい職場環境づくりに努めている。毎年、職員のストレスチェックを行ったり、バレーボール大会や忘年会などの交流会を開催したりするなど、職員のストレスを軽減するための工夫をしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	勉強会への積極的な参加を促している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	スタッフ全員が能力や努力に応じて評価されるように支援を行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	案内があれば参加するようにしているが、現在は参加出来ない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	毎年ストレスチェックを行ったり、入居者さんだけではなく、スタッフも働きやすい環境づくりに努めている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	毎年勉強会を通して、高齢者の虐待について繰り返し勉強している。				年1回、虐待や身体拘束についての勉強会を行っている。職員の不適切なケアを発見した場合には、まず管理者が個別に職員に確認を行い、施設長へ報告している。その後、施設長と管理者が相談・対処し、適切な改善に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎月ミーティングを開いており、日々の業務の話し合いもやっている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	法人内の勉強会で学んだことを報告するようにしている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	スタッフの疲労やストレスを考え勤務を調整したりしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	身体拘束の勉強会を毎年開催し、理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束の委員会にて、身体拘束に当たるかを定期的にチェックしている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	入所される際に、身体拘束は行わない事を家族さんと本人さんに説明理解していただいている。				

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	日常生活自立支援事業や成年後見制度についても、毎年勉強会にて理解行っている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	◎	権利擁護について家族さんにも説明しているが、相談はあがっていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターやケアマネジャー等へ相談できるようにしている。また、パンフレット等の準備を行い、情報提供を行えるようにしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故のリスクがある入居者さんの対応については、ユニット内でマニュアルを作成し、いつでも確認、対応出来るようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	毎年、消防署より救急への対応の訓練を行っていただいている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット報告書も、ミーティング等で対応策を話し合い、事故にならないように努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	常時、環境整備には努め、事故が発生した際は、再度事故が起こらないように対応している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルを作成し、スタッフの全員に説明し、いつでも確認出来るようにしている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情が寄せられた場合は、苦情報告書を作成し、運営推進会議等で報告を行い、対応をスタッフで話し合いを行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しては速やかに対応し、その経過や結果に納得いただける様に話し合いを行っている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	運営推進会議に入居者さんに参加して頂き、意見を言ってもらったり、意見箱をユニット内に設けており、家族さんより意見があれば頂くようにしている。			◎	玄関に意見箱を設置しているほか、日々の暮らしや運営推進会議の中で、職員は利用者から意見や要望、苦情などを聞き取っている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防で、面会制限があるため家族の来訪時に職員はゆっくり会話ができないため、電話で意見や要望などを聞いている。管理者は業務の中で職員からの意見や提案を聞き、必要に応じて、月1回のミーティングで職員と一緒に利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	ユニット内や、施設内に意見箱を設けていたり、家族さんの面会時のコミュニケーション等で意見を頂き、その都度改善出来るように努めている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	意見箱だけでなく、事務所でも苦情等を相談できるスタッフがおり対応している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	日々の様子を日報にて報告を行い、職員の意見や要望を聞いてくださり、現場に足を運んでアドバイスを頂いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	毎月ミーティングを行い、スタッフの意見を聞き、利用者本位に支援が行えるように意見を交換している。			◎	

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価に来て頂き、全員で支援のあり方について話し合い、自己評価に取り組んでいる。				外部評価のサービスの評価結果と目標達成計画は、市担当者や地域包括支援センター、運営推進会議のメンバーに報告しているが、家族へ報告はできていない。今後、管理者は「運営推進会議の議事録を全家族へ送付したい」と考えている。また、運営推進会議のメンバーには、事業所の取り組みのモニターをしてもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価の内容や結果、課題等は、職員全員で確認、共有している。				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	評価の結果を踏まえて、実現可能な計画を作成し、改善できるように全員で取り組むようにしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	評価結果を運営推進会議で報告し、家族さんにも常時閲覧出来るようにしており、今後の取り組みについても運営推進会議で報告するようにしている。	○	×	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内では目標達成計画に上げた成果についてミーティングで話し合いを行い、運営推進会議では行っていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	風水害避難訓練・地震訓練・防火訓練・防犯訓練を毎年実施し、各災害に対してもマニュアルを作成し、職員間で確認・共有を行っている。				複合施設・事業所は、市行政の緊急避難場所に指定されている。年2回、地域住民や消防署と連携して、避難訓練を実施している。事業所として、地域の防災訓練には参加できていない。また、家族アンケートの結果から、災害への対応について家族に十分周知できていないことが読み取れるため、今後は家族に避難訓練への参加を呼びかけて話し合うなど、防災への理解を深めることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	災害の訓練時に、夜間帯や日中の災害を想定し訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	対策委員や厨房職員にて、定期的な点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	地域の自治会との連携を図り、当施設が地域での一時避難場所になっている。		△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	◎	消防訓練を毎年行っていただき、地域の自治体の方等にも一緒に参加していただいている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	×	現在、地域に情報発信したり、啓発活動に取り組めていない。				来訪者の相談は、複合施設の玄関横にある事務所で介護支援専門員が行っているほか、電話での相談には事業所の職員が応じている。複合施設の納涼祭には認知症の相談窓口を設け、地域住民の相談に応じている。また、三島笹飾りや福祉祭り、保育園のイベントに参加したり、小学生のまちなか体験や中学生の施設見学、高校生の訪問を受け入れたりするなど、法人・事業所の存在を地域に広めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	今の所の実績はない。相談があれば適切に対応出来るようにしていきたい。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	◎	フラダンス教室にスタジオを開放している。また、夏祭りイベントには地域の方に声かけを行っている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生の介護体験などの受入を行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	◎	三島笹飾りやどい福祉まつりに入居者さんと一緒に参加させて頂いている。			◎	